

日本ボウリング史の概略 ～JPBA の発足を中心に～

Outline of history of Bowling in Japan -Mainly the inauguration of JPBA-

1K04A239-3

森田 和紀

指導教員

主査 宝田雄大先生

副査 内田直先生

目的と対象

ボウリングは、紀元前 5200 年前に発祥した、世界的に見ても古いスポーツである。しかし、このスポーツが日本に入ってきたのは幕末になってからであり、広く一般に普及するのは、ここからさらに先の戦後の時代になってからである。

この論文では、ボウリングというスポーツが日本に渡ってから現在までの、普及の過程や各組織の設立、発展について、時系列を追って、その歴史の概略を示すことを試みようとするものである。このアプローチの方法として、主にJPBA(日本プロボウリング協会)の発足、その発展の過程を対象として歴史を振り返ることとする。

第 I 章

本章では、JPBAが発足する直前までの、日本でのボウリングの普及の過程について、時系列を追って説明する。

年代の範囲は、幕末にボウリングが日本に伝わってから、戦後に民間商業施設としてのボウリング場の開業、その後全国各地へと普及していく過程と、昭和 40 年代に起こったボウリングブームによるボウリング場の建築ラッシュまでを対象とする。また、本論文の主題でもあるJPBAが発足する元となったアマチュア団体のJBC(全日本ボウリング協会)、その他各アマチュア団体の設立と規模の拡大についても触れる。

第 II 章

ボウリングは、昭和 30 年代後半から急速に日本各地へと広まっていく。ボウリング場も、多くの大会を開き、活気に溢れていた。しかし、大会でのプライズマネーや賞品があまりにも豪華であったため、ボウリング場が青少年非行化の温床となっていると、世論の批判的となった。

このため、国会ではボウリング場を風営法適用対象にしようとする動きが活発化する。風営法の適用を免れようとするボウリング業界は、プライズマネーの禁止や未成年の深夜入店禁止などの自主規制を徹底することで、この危機を乗り越えようとした。

この流れを汲んで昭和 39 年に再編されたJBCは、会員のプロ行為(賞金や報酬を受けること)を厳しく禁じていた。これによりJBCを事実上除名された選手を中心に、新たにプロ団体を設立するに至った。

このように誕生したプロ選手の活躍が、テレビ等を通じて全国に頻繁に伝えられるようになり、空前のボ

ウリングブームが巻き起こった。

本章ではこれらの過程を、JPBAを中心に据えて深く考察することとする。

第 III 章

昭和 48 年末、日本ではオイルショックが起こる。その影響はボウリング業界にも無関係ではなく、これまでの日本全国を沸かせたボウリングブームが突如終焉することとなった。

ボウリング業界は、この苦境から脱出しようと様々な努力を続けることとなった。同じくJPBAも、ボウリング界を再び盛り上げるため、日本国内だけではなく海外でも活躍をし、話題を広げようと必死の努力をやっていった。

本章では、この様子を主にプロの活躍の面から述べることとする。

第 IV 章

昭和 47 年の空前のボウリングブームと、その反動によるかつてない苦境を味わったボウリング業界は、それから長い期間を掛けて苦境を脱出しようと努力を続けた。

平成の時代に突入すると、カラオケや飲食店、健康ランド等を併設する、総合アミューズメント型のボウリング場が成功し、このようなボウリング場が数を増やしていくことになった。

しかしその一方で、昔からあるスポーツ施設としてのボウリング場は、客足が細くなっていったことや、建物自体の老朽化等で、閉鎖を余儀なくされていくところが多かった。

このように古いタイプのボウリング場が新しいアミューズメント型のボウリング場に置き換わっていくことが、アマチュア団体に与える影響は大きかった。現在、どのアマチュア団体でも、会員数の減少が問題となっている。この減少をいかに食い止めるかが、アマチュア団体の今後の課題となっている。

ボウリング場が変遷を遂げるように、JPBAも大きな変革が起こった。平成 16 年に会長に中山律子が就任し、プロの試合が増加し、またテレビ地上波でのボウリング番組のレギュラー放送も行われるようになった。

本章では、これらアマチュア団体のこれからの課題と、JPBAの改革について詳しく述べる。